

白川昌生 「制作過程」

2018.09.02 — 2018.10.28



「夏に出現した」2018 鉄、木、アルミ角、カラー合板 1530 X 2280 X 2090(h)mm

この度 rin art association では 3 フロアを使い白川昌生「制作過程」を開催致します。
本展では長く保管されていた 1980 年代の「赤一彫刻」のドローイングから新作彫刻までを展示いたします。
貴重な機会となりますので、是非ご高覧ください。

[ステートメント]

色、形、構造、素材、質感などを理念的に考えて行くこともできるが、歴史、社会、記憶の領域はこの理念化の作業からはあえて外して行くのが普通だ。けれどもアートが初めから社会的な領域と不可分な関係で生まれて来ていることを考えれば、この理念化は仮説作業の一つでしかないことがわかる。抽象ということもそうなのだ。私は制作の過程でこういうことを考えて行くようになった。

白川昌生(しらかわよしお)

1948 年、福岡県北九州市生まれ。

1970 年代にフランスおよびドイツで哲学と美術を学び、1983 年に帰国。以来、群馬を拠点に、地方性、周縁性、マイナー性をあえて徹底的に引き受けながら、支配的な現代美術の動向や言説、中央の論理とは別の、地域の歴史・文化・経済と直結する活動、例えば「場所・群馬」を実践。今日の多文化主義的な、社会的参与を重視する芸術動向を先取する。また現代美術史に関する研究・著作も多く、優勢な歴史観や規範に対する批判・再検討を絶えず展開している。一方、個別の作品は、日常的な素材を多く用いつつも、かたちと色の構成配置において軽やかかつ精確。彫刻の魅力や可能性を開き、問い続けている。近年の主な展示に、2017 年近年の主な展覧会として、「群馬の美術 2017—地域社会における現代美術の居場所」群馬県立近代美術館（群馬）、「ミュージアムとの創造的対話 vol.1 - MONUMENT」鳥取県立博物館（鳥取）、2016 年「あいちトリエンナーレ 2016」長者町会場（愛知）、「資本空間 - スリー・ディメンショナル・ロジカル・ピクチャーの彼岸 vol.7 白川昌生」gallery αM（東京）、2014 年「白川昌生ダダ、ダダ、ダ地域に生きる想像」アーツ前橋（群馬）などがある。2018 年「芸術と労働」（水星社）を共著。

オープニングレセプション 09.02 18:00 - 20:00

アーティストトーク 10.21 16:00 - 白川昌生 × 金井直（信州大学人文学部教授）

[水-日] 11:00 - 19:00 [月-火] 休廊

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24

t: 0273-87-0195 e: contact@rinartassociation w: <http://rinartassociation.com>